

[14] 西白杵郡小体連 (学校数12校 児童数867人)

○ 内容

I 年間事業

期 日	事 業 名	主 な 内 容	会 場
	第1回郡小学校体育主任会	役員選出・事業計画等	高千穂小学校
※ 例年通りであれば、上記の会議にて事業計画等について話し合ったところであるが、今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止。以降の会議、大会等も実施なし。			

II 事業部のあゆみ

※ 今年度、郡及び町における事業は実施なし。

平成31年度まで実施していた郡陸上教室も実施しない方向で進んでいる。

しかし、児童の体力向上を図るため、児童同士が競い合い、高め合う機会は非常に価値が高い。新型コロナウイルスの感染拡大が縮小していない現状を考慮すると、今後は、1人1人の体力向上を図ることができるような事業を町単位もしくは学校単位で計画し、推し進めていく必要があると考える。

III 研究部のあゆみ

1 研究主題

主体的に運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる体育科学習の在り方  
～山間部小規模校の実態に即した活動の創造と展開～

2 主題設定の理由

西白杵郡の学校は、12校中、へき地校7校、準へき地校2校であり、高千穂小学校以外は単式学級や複式学級である。それゆえ、各学校では、児童1人1人の実態が把握しやすく、学級の児童の実態に応じた体育科指導を行うことができる。また、学校全体の傾向もつかみやすく、体力向上プランにより重点的に課題改善が図れるとも言える。

一方で、1クラスが少人数の学校では、大人数で行う種目をするのに独自の工夫が必要であったり、運動に活発に取り組む児童とそうではない児童との二極化が明確になったりするなどの課題も見られる。これらの課題から、運動に主体的に親しみ、取り組もうとする児童を育成するためには、山間部小規模校の特性に応じた活動の創造と展開が必要だと考え、本研究主題を設定した。

3 研究の目標

小規模校の実態に即した体育科学習や校内活動、授業展開や具体的指導の在り方について究明し、西白杵郡内の小学校に波及させることで、楽しみながら主体的に運動に取り組もうとする児童を育てる。

#### 4 研究仮説

児童が楽しみながら運動に親しむ活動を設定すれば、目標をもったり競争したりしながら運動を行い、体力の向上につながるであろう。

#### 5 研究の実際

##### (1) 朝や業間の活動の工夫

体力テストの課題や季節に応じた運動に、朝の活動や業間活動で継続的に取り組ませることで体力の向上を図った。また、立腰姿勢の向上のために放送で呼びかけたり、朝の立腰・体幹トレーニングを実施したりした。



なわとび運動の様子



ラジオ体操の様子



体幹トレーニングの様子

##### (2) 体育の授業での工夫

体力テストの課題であった握力や立ち幅跳び、反復横跳びの向上につながる運動を体育授業のはじめに毎時間取り入れた。グーパー体操20回、立ち幅跳びジャンプ10回、反復横跳び2分間など短時間にできる内容で継続的に実施した。

##### (3) 昼休みの工夫

委員会の活動と連携して、全校で遊ぶ日を設定し、楽しく運動に親しめるようにした。低学年に高学年の様子を見せることで上手な体の使い方を学ぶ場にもなった。また、体力テストの課題から投げる力の向上につながるドッジボールを計画的に取り入れるなどの工夫もした。



委員会が中心となって全校遊びを実施している様子

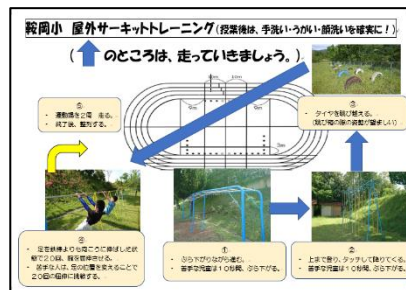
#### (4) 場の設定の工夫

##### ① 体育の授業、業間での実施

体力テストの課題をもとにサーキットトレーニングの場を設定し、体育の授業や業間での活動に取り入れた。また、日常的に内容を確認できるように練習メニューの掲示も行った。



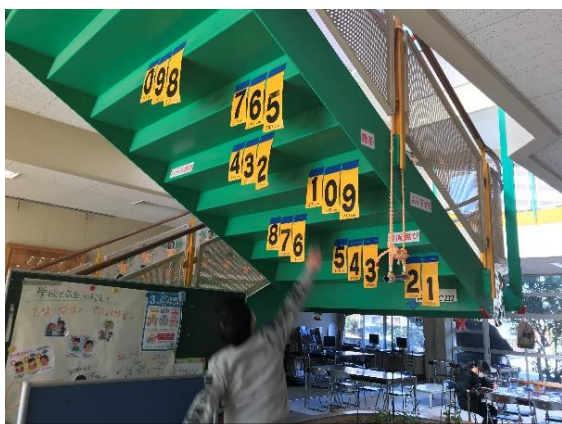
課題をもとにした運動の工夫の例



練習メニューの掲示

##### ② 日常的に取り組める場の設定

運動コーナーを校内に設置することで、いつでも自分の体力向上を図る運動ができるようにした。また、各運動のチャンピオンを示すことで取組への意欲を高めた。



垂直跳びをしている様子



スポンジロケットを  
投げている様子

スポンジロケットチャンピオン		
1年	名前	m
2年	名前	m
3年	名前	m
4年	名前	m
5年	名前	m
6年	名前	m
たんぼぼ	名前	m

記録用紙を掲示

#### IV まとめ

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、様々な体育的行事・取組が中止または制限された。そのような中でも、体力テストの課題や学校や児童の実態に応じて、体力向上や運動に親しむ児童の育成に各学校が工夫して取り組んでいることが分かった。また、研究の実際には述べられていないが、保護者と連携を図った取組や大学生を活用した取組もなされている。

このような取組を山間部小規模校が各学校のものだけにするのではなく、情報交換し、西白杵郡全体の取組として共有していくことが、児童の体力向上や運動に親しむ児童の育成につながっていくのではないだろうか。今後も継続して西白杵郡小体連の研究を進めていきたい。